

平成28年度 県立社高等学校 学校評価

教育目標

生きがいある生涯のために、生きる力と学ぶ力を身につけよう。

- 1 自立的に生きる力と生涯学び通す意欲と姿勢を培う。
- 2 規律と責任を重んじ、自立と協調の精神を養う。
- 3 思いやりや寛容の心と人権尊重の精神を養う。
- 4 豊かな心と逞しい身体を養う。

教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、魅力ある学校づくり、地域から信頼される学校づくり、安全・安心な学校づくりを推進する。
- 2 本校の特色を生かし、基礎・基本の確実な定着を図り、個性や創造性を伸ばすとともに、豊かな感性と自立して未来を切り拓く力を養う。
- 3 命と人権を尊重し、国際的な視野で多様な文化や価値観の理解と尊重する態度を養い、高い志をもって国際社会に貢献する力を培う。
- 4 厳しいなかに温かさのあるふれあいを通して、生徒理解に基づく生活指導を心がけ、生徒一人ひとりの社会性と主体的な進路選択能力を育成する。

各学科のミッション

(体育科) 競技力の向上を図り、将来の体育指導者としてグローバルに活躍する人材の育成
 (生活科学科) 食と栄養のスペシャリストとしてグローバルに活躍する人材の育成
 (普通科) 成りたい自分になるために希望進路の実現を図り、グローバルに活躍する人材の育成
 特に看護医療類型については、看護医療・スポーツ医療分野のエキスパートとして活躍する人材を育成する

平成28年度努力目標・実践目標について

平成28年度の努力目標は、

- ①キャリア教育(進路指導)の充実
- ②生徒学力の向上
- ③広報活動の充実
- ④部活動・生徒会活動の充実
- ⑤心のサポートシステムの構築

の5つの視点から整理した。

それぞれの年度努力目標ごとに、現状とありたい姿について全職員で話し合い、共有化を図った。

実践目標については、平成27年度の成果と課題をふまえて、担当部署ごとに整理した。

また、PDCAサイクルで学校改善が進むようにするために、スケジュール指標・活動指標・成果指標など、実践目標に応じて数値化できるものはできるだけ数値化する等、きめ細かく評価指標を設定した。

学校関係者評価

年度当初に現状分析し、その上で「ありたい姿」に向けて、具体的な実践目標・評価指標を設定し、PDCAサイクルで適切に学校評価を実施している。

学習習慣の確立・基礎学力の定着という面では、まだまだ改善の余地がある。更なる取組の工夫を期待している。

また、体育科・生活科学科の魅力は良く発信されている。普通科の更なる魅力づくりが必要である。

学区拡大の影響で、北播学区全体の生徒募集状況に不安な面がある。加東市のコミュニティバスや兵庫教育大学のバスなど、これまで以上に連携を強化し、生徒の通学の利便性を高める努力も継続すべきである。

◆評価点について；A(5点)B(4点)C(2点)D(1点)としたときの平均値

◆総合評価について；平均4.1以上…A 3.6以上…B

平均3.1以上…C 2.6以上…D 2.5以下…E

努力目標 I		実践目標	主担当	評価指標	評価点	今年度の成果と次年度へ向けて
キャリア教育の充実 (進路指導)		具 体 的 な 取 組	(1) より充実した進路指導体制の構築 進路講話や進路ガイダンスの時期・プログラム・内容等、3年間を見ずえた進路指導計画を作成し実施する。 模擬面接指導や小論文指導、模擬試験や補習等、全職員で生徒を育てる指導体制を確立する。	学年進路 進路指導部 <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会等での講師の選定は適切であるか。 ・大学見学、ガイダンスなどについては、各学年で最も適した時期に適した形で実施しているか。 ・学年で実施した進路関係の行事の記録を進路でまとめ共有化しているか。 ・各学年で平常及び長期休業中の補習の計画を職員会議に提示しているか。 ・3年生対象の面接対策、小論文対策を教職員が協力して実施しているか。 ・生徒にとって利用しやすいよう進路指導室の環境を整えているか。 	4.0	A (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス、大学見学などは学年主導で効果的に実施、補習の予定とともに職員会議で連絡をした。 ・第3学年との連携については良好であり、生徒への進路指導が円滑に進んだ。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス、大学見学は学年により行き先や実施時期が異なるため従前通り学年主体で実施、ただし、大学見学のバス代をガイダンスとセットにせず進路から一部補助する。 ・より多くの生徒が学習に取り組める自習室の確保と進路指導室の使用方法の変更（面談、面接指導、小グループでの学習指導など） ・進路で3年間を通した進路指導のあり方をまとめる一方で、学年間や学年内での情報交換が緊密に行われるように配慮する。 ・また、進路指導部が第1、2学年とも日常的に連携をとるよう心がける。 ・公務員希望生徒に対しての二次対策（面接指導）を充実させる。
			(2) 教職員の進路指導力の向上 進路状況（就職・進学）の整理と分析を行い、共通理解をしながら生徒の指導にあたる。 最新の進路情報の入手と進路指導力の向上を目指した職員研修会を充実させる。	進路指導部 <ul style="list-style-type: none"> ・12月から4月にかけて「進路だより」を3回発行しているか。 ・「進路の手引き」の内容を充実し、5月に発行しているか。 ・就職について、過去の結果等を分析・整理し、指導に役立てているか。 ・国公立の推薦の結果と動向について適切に情報提供しているか。 ・外部講師による職員進路研修会を年間1回は実施しているか。 	3.8	B (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・「進路だより」を3回発行し、HPにもアップしている。 ・「進路の手引き」については、入試について基本的なことがわかるような内容に改変し、学年団に配布した。 ・国公立推薦入試の結果をまとめて、学年進路に配布説明した。 ・6月に河合塾の講師による職員研修を実施した。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の職員研修は外部講師を呼ばずに、本校の国公立大推薦・AO入試の取り組みについて共通理解を得、指導の向上をはかるために、進路と旧第3学年担任を講師として実施する。
(ありたい姿) 様々な進路の中から、自分に最も適した進路を能動的に模索し、将来どのような形で社会と関わり貢献できるかを考えることのできる生徒。また、その実現のために、粘り強く最後まで学習を続けることができる生徒および互いに高めあい励まし合うことができる生徒集団。	(現状) 就職については、意識の低い生徒が若干みられる。 進学については、指定校を重視する傾向があるため、私立の公募推薦の受験者も多く、早く決まればよいと易きに流れがちである。その結果、一般入試まで努力を続けられる生徒が少なく、集団としても最後まで粘る雰囲気はない。	(3) 学びの原動力・推進力となる体験学習の充実 高大連携を推進し、計画的に大学見学会や分野別模擬授業などに取り組む。また、産学連携を推進し、インターンシップ、職場訪問など体験学習の機会を充実させる。体育科や生活科学科については、トップアスリートやスペシャリストから直接指導を受ける機会を充実させる。	進路指導部 学年 生活科学科 体育科 <ul style="list-style-type: none"> ※高大連携については(1)と同じ。 ・就職希望者へのインターンシップを組織的に実施しているか。 ・生活科学科、看護医療類型においては、その専門性を生かしたインターンシップを実施しているか。 ・専門学科では、「ひょうごの達人」招聘事業やインスパイア・ハイスクール事業などを活用して、本物に触れる機会を充実させているか。 	4.1	A (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについては、科、類型ともに専門性を生かして実施している。また、それ以外の就職生についても実施している。 ・専門学科では様々な本物に触れる機会を充実させている。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについてキャリア教育の観点から、事前・事後指導を充実させる。 	

努力目標Ⅱ		実践目標	主担当	評価指標	評価点	今年度の成果と課題	
生徒学力の向上		具 体 的 な 取 組	(1) 教職員の教科指導力の向上 生徒の興味と意欲を高める「わかる授業」作りのために、計画的に公開授業や研究授業に取り組む。定期的に生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。 高大接続改革をふまえて、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブラーニング）を授業に取り入れる。	学力向上推進委員会 教務部 各教科	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で年間1回は授業研究会を実施しているか。 各教員が、年間1回は公開授業を実施しているか。 全科目でシラバスを作成しているか。 各教員が、年間1回は生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に活かしているか。 アクティブラーニングに関する研修会を実施したか。 	3.7 B	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 教員による公開授業については、5月下旬から6月上旬にかけての2週間に公開授業週間を設定し、約8割の教員が実施した。 シラバスの作成率は約3割に留まっている。 11月中旬に兵庫教育大学より講師を迎え、アクティブラーニングの研修会および、授業研究会を実施した。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 年度末には、生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に行かしたい。
			(2) 学習習慣の確立 学習規律を確立し、生徒が真摯な態度で、授業に取り組むようにさせる。また、学習の記録の作成や定期的な補習、週末課題、課題確認テストなど、家庭学習習慣確立のための取組を充実させる。 学期ごとに、生徒の生活実態及び学習状況調査を実施・分析し、生徒の学習習慣の確立のための指導に役立てる。	学力向上推進委員会 教務部 各学年 進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 1日の家庭学習時間について、2時間以上の割合が50%以上に高まっているか。 全生徒が、学習の記録を作成しているか。 定期的な補習、計画的な週末課題が充実し、定着しているか。 1・2学期末に生活実態及び学習状況調査を実施し、分析結果を指導に役立てているか。 	3.1 C	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 1日の家庭学習時間が2時間以上である生徒の割合は、1割程度である。 各学年で学習の記録を作成し、担任による学習状況のチェックが成されている。 夏期補習や平常時の補習、週末課題が計画的に行なわれている。 7月に第1回生活実態及び学習状況調査を実施した。 第2回生活実態及び学習状況調査を県教委の指定した項目についてクラスを抽出して行った。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 1日に家庭学習時間が2時間以上の生徒の割合を増やす具体的な方策を考え、実行していきたい。 生活実態及び学習状況調査結果を分析し、その結果を学習指導及び進路指導に役立てていきたい。
			(3) 模擬試験や資格試験の活用 定期的に模擬試験等を受験させ進路意識の向上を図る。模擬試験等の受験後の振り返り（解き直し・復習）を習慣づけ、苦手分野の克服に努めさせる。 英語検定や漢字検定、情報処理検定などの検定試験を校内で実施し、資格の取得を奨励する。	学力向上推進委員会 進路指導部 各学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に校内模試を実施し、受験結果を分析することによって生徒の学力を学年内や教科で共有し、学力向上の方策を検討しているか。 各学年・各科目で校内模試の全国平均偏差値が4.7以上になっているか。 英検または漢検で準2級以上の資格取得者が、1年50名以上、2年100名以上、3年150名以上になっているか。 	3.3 C	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 模試の平均偏差値については、目標を達成できていない科目もあるが、目標値を意識した指導が定着しつつある。 英検および漢検の準2級以上の資格取得者は第1学年：英検11名・漢検5名(2級1名)、第2学年：英検40名・漢検10名、第3学年：英検70名(2級10名)・漢検11名(2級1名)と目標値には達しなかったが、過年度と比べて資格取得への意欲が全体に高まってきている。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 校内模試の全国偏差値について、各教科において、目標数値を超えるよう学習指導の充実を図りたい。また、各教科において成績の推移に重点をおいた評価目標も設定して伸び率の面でも評価していきたい。 英検または漢検で準2級以上の資格取得者数の数値目標実現に向けの指導を強化していきたい。

努力目標Ⅲ		実践目標	主担当	評価指標	評価点	今年度の成果と課題	
広報活動の充実		具 体 的 な 取 組	(1) 各種通信及びホームページの充実 学年通信、学科通信など各種通信は少なくとも毎月1回発行し、ホームページに掲載する。 ホームページの更新回数を増やすとともに内容の刷新を図る。	各学年 各学科 総務管理部	<ul style="list-style-type: none"> 各通信は毎月1回以上発行しているか。 ホームページは現状に合わない情報をアップデートしているか。 行事の記録なども含め、週に数回は新しい情報を発信出来ているか。 	4.1 A	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 行事や情報があるごとにHPを更新することが出来た。特に体育科の情報発信はこまめに行えた。 各通信は概ね月一回以上発行されているが、さらにHPへの掲載を進めてゆきたい。 2年生は修学旅行に於ける学校行事ブログをこまめに配信し、多くのアクセスを得た。最終日のコース別研修についても各コース引率者の協力により充実したブログとなった。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 各学年・学科通信の内容のさらなる充実を目指し、コンスタントにHPに掲載してゆく。 学科・学年・部活動ページを適時更新し、地域や中学生・保護者に社高校の魅力をアピールしてゆく。 一部リンク切れや表示されない画像などがあるのでサイトを整理してゆく。またサイト全体を見直し、古くなっている情報は最新のデータにアップデートする。 学年と情報委員会との連携強化を図っていきたい。
			(2) オープン・ハイスクールの効果的な運営 毎回、異なる視点で開催し、本校のあらゆる活動を、全校を挙げて協同で運営する。また、生徒を前面に押し出した企画・内容で本校の育てたい生徒像を発信する機会とする。 学校紹介ビデオを更新し、リポーターにも様々な本校の姿を見せるように努める。	生活科学科 体育科 総務管理部	<ul style="list-style-type: none"> オープン・ハイスクールごとにプログラムの工夫をおこなっているか。 生徒を前面に押し出した運営になっているか。 学校紹介ビデオやプレゼンの内容や構成はなるべく新鮮な素材を用いたものになっているか。 	4.1 A	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 特に夏のOHは中学生と在校生の懇談を行うなど、生徒を前面に押し出した運営ができ、学校紹介ビデオやプレゼンも新鮮な素材で行うことができた。アンケート結果も評価が高く、効果的な学校紹介ができた。 秋のOHでは実際に授業を受ける生徒の様子を見学してもらうなど、夏とは違う視点で社高校の姿を理解してもらう機会になった。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> プログラムの工夫という観点では、まだまだやれることがあると考える。対象中学生や教員・保護者の興味関心が高まる内容を検討したい。 夏の施設見学のルートを、社高校の魅力的な部分を効率よく見学できるように整理する。
			(3) オープン・スクールの機会と内容の充実 生徒会行事（文化祭・体育大会）や秋の授業公開週間に加えて、課題研究発表会（体育科・生活科学科・看護医療類型）をオープン・スクールの期間に加え、更なる内容の充実を図る。 体育科・普通科・生活科学科の合同発表会など、大学関係者、企業等、多くの学校関係者に教育成果を見ていただく環境を整える。	教務部 生活科学科 体育科 総務管理部	<ul style="list-style-type: none"> 秋の授業公開週間に参観している保護者・地域等の方々が昨年度よりも増えているか。 体育科、生活科学科、看護医療類型において実施する課題研究発表会をオープン・スクールとして設定しているか。 3学科合同発表会を実施するための環境を整えるために、課題等が議論されているか。 	3.9 B	(成果) <ul style="list-style-type: none"> 秋の授業公開週間に来校される保護者・地域の方は昨年度よりも増えており、本年度は教育研修所からも指導主事の参観があった。 各学科・類型の課題研究発表会は準備に時間をかけ、充実したものとなり、保護者の参加も多かった。 文化祭や体育大会にも多くの保護者・地域の方の来校があった。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間では、保護者や外部の方がさらに気軽に授業を参観できるような工夫をする（見やすい授業・教室への入りやすさなど）。また参加者が増えるように広報活動を充実させる。 3学科合同発表会を開催するための議論を深める。

(ありがたい姿)
 常にタイムリーで正確な社高校の姿を発信し、保護者や地域の方から信頼されるとともに、学校の基本情報や行事・部活動の様子など、中学生が進路選択をする際に、社高校を正しく理解できるような情報を充実させ、好感度を高めることをめざす。

(現状)
 ホームページは定期的に更新できているが、現状に合わない部分が残っている。また、オープン・ハイスクールやオープン・スクールにおいて、生徒を前面に出した運営が十分には行えていない。

努力目標Ⅳ		実践目標	主担当	評価指標	評価点	今年度の成果と課題
部活動・生徒会活動の充実		(1) 規律ある部活動運営と入部率のアップ 生活三原則（時を守り・場を清め・礼を正す）を徹底し、規律ある部活動運営を心がける。また、定期的に部活動集会を開催し、部活動間の交流を深めるなど、生徒の主体的な活動を支援することで部活動の活性化と入部率のアップを図る。	学年生徒指導 生徒指導部	・部活動生集会を定期的に行っているか。 ・各部活動において、工夫を凝らした部活動紹介ができていないか。 ・部活動活動実態調査の充実を図り、活性化のためのノ一部活動デーとなるよう推進しているか。 ・部活動生集会を各部からの活動報告の場になっているか。 ・部活動入部率が80%以上になっているか。	4.0	A (成果) ・成果としては、ノ一部活動デーの推進と入部率80%以上は達成できた。 ・部活動生集会のあり方が反省点である。 (次年度に向けて) ・部活動生集会を毎学期の終業式後に行いたい。それと、その内容の精選が必要である。 ・入部率の向上については、一学年の協力を得て新入部員の増大が図れたので、この流れを次年度に引き継ぎたい。
		(2) 生徒会活動・ボランティア活動の充実 文化祭、球技大会、体育大会といった生徒会行事を、生徒が主体的に企画・運営できるように支援することで生徒会活動をこれまで以上に活性化させる。 また、生徒会が中心となり、各種ボランティア活動に積極的に取り組めるように環境を整える。	生徒指導部(生徒会係)	・生徒会行事の計画案を充実させ、早い段階から取り組ませているか。 ・球技大会については、企画・運営全てを生徒会とし、各競技における補助も競技の運動部員がしているか。 ・地域清掃活動等のボランティア活動に参加した生徒が全校生徒の70%以上になっているか。	3.8	B (成果) ・3年生からの引き継ぎが非常にスムーズであったため、新執行部の活動も早かった。また執行部の人数が少ないのもあり、連携が取りやすそうに見られたのが、良い結果につながったと思われる。 (次年度に向けて) ・ボランティアの参加が全校生徒の70%を超えるということができなかった。次年度は、ボランティア登録制を導入し、全校生徒を対象としたボランティア活動への参加を促したい。
		(3) 委員会活動の活性化 図書委員会を中心とした読書の推進活動、美化委員会を中心とした校外の環境美化活動、風紀委員会を中心とした挨拶運動、保健委員会を中心とした健康で安全な生活を送るための啓発活動など、各種委員会活動を活性化させ、活気ある学校づくりに努める。	関係部署 生徒会	・各種委員会を年間2回以上実施しているか。 ・各委員会において、年間スケジュールを提示させ、活動計画案を提出させているか。 ・朝読書など、読書推進活動が行われているか。 ・年間で25回以上の挨拶運動が行われているか。 ・美化活動が実施されているか。 ・保健、安全面での啓発活動が行われているか。	3.1	C (成果) ・例年とおりの取組が多く、特に成果としてあげられるものは、非常に少なかった。 (次年度に向けて) ・各種委員会の実施を、担当者をつけて行う（年2回）。 ・各種委員会活動の活動計画案の作成と提出を行う。 ・各種委員会活動を評価する機会を設ける。
(ありがたい姿) 各種活動において自ら計画、活動ができるようになりたい。またそれらの指示が生徒主導でありたい。 具体的には、部活動の入部率が上がり、生徒会行事や各種委員会の活動が活発に行われ、生徒が生き生きとした活気に満ちあふれた学校でありたい。	(現状) ほとんどの生徒が時と場所に合った行動・態度が取れてはいないが、自主的に行動をしたり主体性を持って活動に取り組むことがなかなかできてはいない。また、生徒会行事や委員会活動も活発とは言えない状況である。 さらには、部活動の入部率も約70%と決して高くはない。					

努力目標Ⅴ		実践目標	主担当	評価指標	評価点	今年度の成果と課題
心のサポートシステムの構築		(1) 教職員の専門性の向上と協働体制の構築 生徒の内面理解に基づき、自己有用感を高めて、やる気を起こさせる指導を推進する。そのために、カウンセリングマインド研修会等、教職員の専門性を高める研修会を計画的に実施する。また、生徒情報を共有し、組織的に指導・支援にあたる体制を整える。	コーディネーター 保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談等に活用できる研修内容を計画し、教職員全体の資質・指導力の向上を図っているか。 ・全職員が、生徒情報を共有しているか。 ・特別支援委員会を中心にして、特別な支援を要する生徒に対して、組織的に指導・支援にあたれているか。 	3.8	B (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力を向上のための研修会を実施することができた。 ・パーソナルファイルを活用し教職員全体で情報を共有することができるようになった。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・更に研修会の充実を図る。 ・教員の資質、指導力の向上を図る機会を充実させる。 (例) 他校の実践発表会への参加→取組の共有化 ・日常的なコミュニケーションの機会の充実及び定期的な特別支援委員会の開催等により教員間の連携を強化する。
		(2) 中学校や保護者と連携した生徒情報の収集及び共有化 体育科については、合格発表後すぐに中学校に訪問し、本校所定の様式である「生徒パーソナルファイル」を中学校・保護者の協力を得て作成する。入学後も定期的にパーソナルファイルの見直しと情報の共有化を進め、中学校・保護者と連携協力しながら、個々の生徒の指導・支援にあたる体制を整える。	各学年 体育科 心のサポート担当者会	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問など、生徒情報の収集に努めているか。 ・定期的な三者面談等、保護者との連携ができているか。 ・拡大学年会議を学期ごとに開催し、生徒の現状を常に共有化しているか。 ・生徒パーソナルファイルの共有化により、きめ細かい生徒支援が行えているか。 	3.7	B (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・合格発表後の中学校への訪問により情報集めをし、あわせて生徒パーソナルファイルを作成したことによって年度当初スムーズに生徒対応ができた。 ・担任以外の教員による面談も実施し、一人一人にきめ細かく対応できた。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した合格発表後の中学校訪問、パーソナルファイルの作成を生活科学科・普通科でもおこない生徒支援を充実させる。 ・生徒の気になる言動を見聞きした時に、すべての教員がパーソナルファイルに入力し、共有しやすくなるように、システムの簡素化を図る。
		(3) より良い人間関係、心を支える相談体制の構築 人権 HR や人権講演会等、人権感覚育成のための取り組みを充実させる。担任だけでなく、部活動顧問、教科担当など、生徒との個人面談の機会を充実させる。また、カウンセリングの機会を充実させ、必要に応じて特別支援委員会を中心にチームとして生徒の支援にあたるようにする。	人権・国際理解教育部長 特別支援教育委員会委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・人権 HR や人権講演会など、人権尊重の精神を育てる機会は充実しているか。 ・加東市姉妹都市や兵庫教育大学留学生との交流など、異文化共生の精神や態度を育てる機会を設けているか。 ・生徒との個人面談の機会が充実しているか。 ・特別に支援を要する生徒の指導について、全職員でかかわる体制が整っているか。 	3.9	B (成果) <ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会や国際交流 LHR、車椅子バスケットボール体験などを通じて生徒の人権尊重・異文化共生の精神を育てる機会は充実してきている。 ・特別支援教育についてもようやくスタートを切りつつある。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への人権感覚育成に対する姿勢等、教職員の資質向上のための取組を充実させる。 ・教員と生徒との「心のふれあい」機会を充実させる。 ・特別な支援を要する生徒の支援計画の作成を、年度当初の早い段階で行い、全職員で情報共有しながら生徒支援にあたる体制を整える。